

## エゼキエル書34章23-24節 「良い羊飼いい」

### 1A イスラエルの牧者たち

1B 自分を肥やす者たち

2B 散らされる羊たち

### 2A 羊飼いにられる主

1B 捜し、世話をされる主

2B 主のしもべダビデ

1C ダビデの子イエス

2C 良き羊飼いい ヨハネ 10 章

1D 狼や雇われ羊飼いい

2D イスラエルの滅びた羊

3D アブラハムの娘、息子

3C 牧場なるイスラエルの地

### 3A 羊飼いの声

## 本文

エゼキエル書 34 章を開いてください。私たちの聖書通読の学びは、エゼキエル書の半ばまで来ました。主がエルサレムをバビロンによって滅ぼされることを宣言する、裁きの言葉は 32 章をもって終わります。エルサレムが破壊されたことをバビロンにいるユダヤ人に伝えに来た者がいた時に、主が再びエゼキエルの口を開いて、イスラエルの回復を伝える言葉を語り始めるのです。それが 33 章からです。午後礼拝において、33 章から 35 章までを読んできたいと思います。今朝は、34 章に注目します。23-24 節を読みますが、ここだけに限らず 34 章全体を眺めてみたいと思います。「**23 わたしは、彼らを牧するひとりの牧者、わたしのしもべダビデを起こす。彼は彼らを養い、彼らの牧者となる。24 主であるわたしが彼らの神となり、わたしのしもべダビデはあなたがたの間で君主となる。主であるわたしがこう告げる。**」

### 1A イスラエルの牧者たち

34 章は、2 節にあるように「イスラエルの牧者たちに向かって預言」しているものです。これは指導者のことを指しており、主に政治的な指導者、王たちに対して語られているものであり、そして宗教指導者に対しても語られています。彼らが指導する民に対して、彼らが行なわなければいけないことは、「養うことだ」ということです。しかし、それを行わず、彼らからむしり取り、私腹を肥やしていたので、主が彼らから民を取り上げると言われています。

私たち日本人は、羊を飼うことについてなかなか、その感触がつかめません。しかし、イスラエ

ルやその周辺に生きている人々は、羊の群れが歩いているのを見ることはあまりにも、ありふれた風景であります。私も、その感触を得るために改めてユーチューブの動画で、羊を飼っている姿を見ました。どこの国でしょうか、住宅街の裏通りを一人の羊飼いが前を歩いていて、それに従う何百匹もの羊が付いてきているのです。千匹近くいたでしょうか？道に植えられている小さな木の葉を食べそうになって、迷いそうになっている羊もいるのですが、基本的にその群れの流れに付いて行っています。それを見て、「イエス様と、イエス様について行っている大勢のクリスチャンのようだ。」と思いました。もう一つの動画を見ました。それは、羊飼いが羊の大群に対して、声をかけるのです。まるで人に話すように、声かけを大声でするのですが、その羊の大群が、「イエー！」と言っているかのように、まるでステージで歌手が大声で呼びかけて、観衆が答えているように、羊が「メエ〜！」と答えているのです。これもまた、羊飼いの声をよく聞き分けている姿を見ます。そして、三つ目の動画は、これまた数百匹いるかもしれない羊の群れが、羊飼いの声によってどンドン、囲いの中に入っていくものでした。ヨハネ 10 章の、「わたしが羊の門です。」とイエス様が言われた場面だなと思いました。

これらの羊に対して、羊飼いが行なうべきことは何でしょうか？「養う」ことです。2 節に、「牧者は羊を養わなければならないのではないか？」とあります。私たちが読みました、ダビデの詩篇 23 篇には、「主は私の羊飼い。私は、乏しいことはありません。主は私を緑の牧場に伏させ、いこいの水のほとりに伴われます。(1-2 節)」とあります。私たちは、肉体的にも、霊的にも、自分を養ってくれる人が必要です。肉体的には、もちろん父親がいます。家族の基本的必要を満たすことが、父としての役割です。そして国の指導者であれば、生命と財産の安全です。どんな体制であろうと、国が存在する目的はそこにいる人々が食べて生きていくことができるという、経済的な必要と、また外敵から守られるという安全保障の必要があります。私たちが選挙で誰かを選ぶ時は、この二つの基本的必要を満たす人が必要です。そして霊的には、同じように養いが霊的に与えられる必要があります。しかし、その人が与えるのではなく、主ご自身に信頼することを教えることによって、指導します。主ご自身が命であり、平安であり、安全ですから、この方により頼むことを教え、導き、それで主ご自身とのつながりを強めるために横にいる人です。

イエス様は、ペテロに「あなたは、わたしを愛していますか？」と尋ねられました。ペテロは、愛していますと答えると、「わたしの子羊を飼いなさい。」「わたしの羊を牧しなさい。」「わたしの羊を飼いなさい。」と言われました(ヨハネ 21:15-17)。イエス様を愛するという事の中に、羊を飼うことを第一に挙げられているのです。エゼキエル書 34 章の最後に、「あなたがたはわたしの羊、わたしの牧場の羊である。(31 節)」と主は言われています。そして、「あなたがたは人で、わたしはあなたがたの神である。」と言われます。私たちが信仰生活の中で、教会生活の中でどれだけその必要を感じているでしょうか？自分が単なるか弱い人であり、また絶えず、養いと守りと導きが必要な羊であると認識しているかどうか、であります。

羊飼いは主ご自身です。けれども、今話しましたように、主ご自身の養いと守り、導きを受けることができるように、霊の糧である御言葉を教える人をキリストは教会に建てると言われました。その人も牧者、羊飼いとされます。「エペソ 4:11-13 こうして、キリストご自身が、ある人を使徒、ある人を預言者、ある人を伝道者、ある人を牧師また教師として、お立てになったのです。それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためであり、ついに、私たちがみな、信仰の一致と神の御子に関する知識の一致とに達し、完全におとなになって、キリストの満ち満ちた身たけにまで達するためです。」「牧師また教師」と書いてありますが、牧者は、霊の糧で養う奉仕をするので、しっかりと御言葉を教える務めを持っています。そしてその目的は、聖徒を整えて奉仕の働きをさせることです。その主に対する仕えをしていくことによって、キリストの体が建て上げられていくこととなります。

### 1B 自分を肥やす者たち

けれども、もし牧者らが、養うことを怠ったらどうなるでしょうか？それがエゼキエル書 34 章に書いてあることです。羊を養うのではなく、3 節には、むしろ羊を屠って、その肉を食べ、羊毛で身をまといます。これは酷いことです、食べ物を与えるのではなく、その人を食べ物にしていくのです。ペテロは偽教師のしていることについて、こう言いました。「また彼らは貪欲なので、作り事のことばをもってあなたがたを食べ物にします。(2ペテロ 2:3)」羊を養うのではなく、教会の規模が大きくなることに思いが行っている時に、この過ちを犯します。

そして 4 節、弱った羊がいれば強めなければいけません。前回、私たちはそれぞれが松葉杖を必要としており、主ご自身がその支えであり、それぞれが主にあって努めないといけないという話をしました。羊飼いがそれをしなければいけないのに、やっていません。そして、傷ついた羊がいれば、その手当をしなければいけません。それもしません。ヤコブ書には、長老たちを集めて、オリーブ油を塗ってもらい、癒しのために祈ってもらいなさいと書かれていますが、それをやりません。

さらに、「迷い出たものを連れ戻さず、失われたものを捜さず」とあります。群れを成していると、必ず羊が一匹、二匹、迷い出てしまいます。聖地旅行で、一度、どこに行ったか分からなくなってしまった方がおられました。私は必死で捜しましたが、ガイドさんの携帯に電話がかかってきました。現地のイスラエル人の方の携帯を使って電話してこられたのです。けれども、もし私が捜さないでいたら、どうでしょうか？霊的には、救われていない人々、滅びへと向かっている人々のことを指しています。伝道しない、霊の救いを考えていないというのは、迷った人を捜さない案内人のようなものです。

そして、「かえって力づくで暴力で彼らを支配した」とあります。信者の模範となれとパウロもペテロも、牧者や長老たちに教えています。模範によって人々を導くのではなく、力で支配することです。牧師に逆らうことは、神に逆らうことだと脅します。そして悲しいことに、教会において、言

葉の暴力、そして物理的に殴る、蹴るなどの暴力を受けたという社会問題になった事件もあります。コリントにある教会は、パウロが自分たちを支配しているのではないかと恐れていて、彼がどれだけ愛しているのかを受け入れていませんでした。そのように過剰に警戒しているのですが、自分たちは偽教師たちによって虐げられていることに気づきませんでした。「2コリント 11:20 事実、あなたがたは、だれかに奴隷にされても、食い尽くされても、だまされても、いばられても、顔をたたかかれても、こらえているではありませんか。」しかしイエス様は、「あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、みなに仕える者になりなさい。(マルコ 10:43)」と言われました。

## 2B 散らされる羊たち

そして、養わない羊飼いたちがいれば、どうなるでしょうか？ イスラエルではこうなりました。「5 彼らは牧者がいないので、散らされ、あらゆる野の獣のえじきとなり、散らされてしまった。6 わたしの羊はすべての山々やすべての高い丘をさまよひ、わたしの羊は地の全面に散らされた。尋ねる者もなく、捜す者もない。」バビロンによってエルサレムが攻め取られ、多くが殺され、捕囚の民となり、だれも彼らのことを気にかける人々がいなくなりました。

これは霊的には、養われることによって成長します。しかし、養われないので世にあることで、振り回され、もてあそばれていくことを意味します。「エペソ 4:14-15 それは、私たちがもはや、子どもではなくて、人の悪巧みや、人を欺く悪賢い策略により、教えの風に吹き回されたり、波にもてあそばれたりすることがなく、むしろ、愛をもって真理を語り、あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達することができるためなのです。」この世の荒波の中でも、なおのこと信仰に堅く立ち、救霊の愛、隣人の愛に満たされている方々は、養われているからそうなっています。しかし、しっかり養われていないと、こうした荒波に飲まれます。イエス様が捕えられる前に、主は、羊飼いが打たれたので、羊が散り散りになるというゼカリヤの預言を語られましたが(マタイ 26:31)、つまりいた弟子たちのように困難な時代には、つまりいて散り散りになってしまいます。

## 2A 羊飼いにられる主

### 1B 捜し、世話をされる主

こうして物理的に、イスラエルから散り散りになったご自分の民がおり、霊的にも神の怒りを受けてしまった民がおりますが、主は約束をされました。11 節です、「まことに、神である主はこう仰せられる。見よ。わたしは自分でわたしの羊を捜し出し、これの世話をする。」彼ら、ユダの国の指導者たちは羊を養わなかったので、彼らからイスラエルの民を引き離されました。そして主は、ご自身が彼らを養うと約束されたのです。捜し、世話をするのです。

## 2B 主のしもべダビデ

### 1C ダビデの子イエス

そして初めに読んだ本文があります。「23 わたしは、彼らを牧するひとりの牧者、わたしのしの

ベダビデを起こす。彼は彼らを養い、彼らの牧者となる。」そうです、主はご自身が羊飼いとなると言われましたが、しもベダビデをイスラエルの国の羊飼いとして起こすと約束されました。これはダビデが復活する、というよりも、ダビデ自身に主が約束されたのは、「世継ぎの子」であります。彼から出て来る子孫、世継ぎの子が永遠の御国を治められるということです。マリヤが身ごもった時に、ガブリエルが宣言しました。「ルカ 1:32-33 その子はすぐれた者となり、いと高き方の子と呼ばれます。また、神である主は彼にその父ダビデの王位をお与えになります。彼はとこしえにヤコブの家を治め、その国は終わることがありません。」

## 2C 良き羊飼い ヨハネ 10 章

### 1D 狼や雇われ羊飼い

そこでイエス様が、あの有名な「良い羊飼い」の話を語られたのです。ヨハネによる福音書 10 章に、ご自身を羊飼いであると宣言されました。「ヨハネ 10:11-14 わたしは、良い牧者です。良い牧者は羊のためにいのちを捨てます。牧者でなく、また、羊の所有者でない雇い人は、狼が来るのを見ると、羊を置き去りにして、逃げて行きます。それで、狼は羊を奪い、また散らすのです。それは、彼が雇い人であって、羊のことを心にかけていないからです。わたしは良い牧者です。わたしはわたしのものを知っています。また、わたしのものは、わたしを知っています。」

イエス様が、ユダヤ人のために来られた時に、その宗教生活を支配していたのはユダヤ教のパリサイ派でありました。ゼカリヤの預言によれば、彼らはエゼキエルが預言したような、羊をほふるような羊飼いでありました(11:4-5)。彼らを養っておらず、自分の利益を追求していたのです。それで主ご自身が、羊を養うことに決められました。そして僕を遣わされました。イエス・キリストです。主が良き羊飼いとなられました。雇い人の羊飼いは、羊を養い、羊に惜しみなく命を捧げます。そして、神によってイエス様のものとなった者たちは、イエス様の声を聞けば聞き分けることができ、その声についていくことができます。先ほど話した、羊飼いが声を出すと、一斉に答えたり、また囲いに戻って来るようになるからです。これができるのは、羊飼いが羊をよく世話して、養い、捜しているから、そして狼が来たら命まで捧げるからです。羊は自分で動くことができず、すぐに迷い、自分で食べることができないのですが、その分、羊飼いに頼ることを知っています。それゆえ、群衆がイエス様についていき、そしてユダヤ教の指導者は自分たちから民が離れていったのです。

### 2D イスラエルの滅びた羊

イエス様は、「わたしは、イスラエルの家の滅びた羊のところに来た」と言われました(マタイ 10:6,15:24)。イエス様は、霊的に敵の攻撃によって死んでしまったイスラエル人を見ておられました。「マタイ 9:35-36 それから、イエスは、すべての町や村を巡って、会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、あらゆる病気、あらゆるわずらいを直された。また、群衆を見て、羊飼いのない羊のように弱り果てて倒れている彼らをかawaiiそうに思われた。」ここの「かawaiiそうに思われた」というのは、「断腸の思いであった」という感情に近いものです。

### 3D アブラハムの娘、息子

イエス様がそのような思いをもって、イスラエルの滅びた羊を助けた出来事として、18 年間、病の霊につかれて、腰が曲がっていた女を癒された話があります。癒されたと宣言されて、手を置かれると、たちまち腰が伸びました。神をほめたたえました。会堂管理者が憤って、安息日にしてもらいなさいと言った時に、イエス様は、「この女はアブラハムの娘なのです。それを十八年もの間サタンが縛っていたのです。(ルカ 13:16)」と言われました。そうです、アブラハムの娘なのです。だから、お直しになりました。そして、ザアカイに対してもそうでしたね。彼は取税人でしたが、イエス様が彼の家に泊まることにしておられました。ザアカイはイエス様を招き入れ、そこで自分の財産の半分を貧しい人たちに施します、と言いました。だまし取った物は四倍にして返すと言いました。そして、イエス様が言われたのです。「ルカ 19:9 きょう、救いがこの家に来ました。この人もアブラハムの子なのですから。人の子は、失われた人を捜して救うために来たのです。」彼もまた、アブラハムの子なのだと呼ばれました。彼は貪欲という罪の縄目に縛られていて、失われていたイスラエルの羊だったのです。しかし、イエス様が捜し、救ってくださいました。

### 3C 牧場なるイスラエルの地

ところで、イエス様は良い羊飼いとして来られましたが、悪い羊飼いであるユダヤ人指導者らが、この方を追い出してしまいました。その結果として、バビロン捕囚の再現、いやもっと大きな世界規模のローマによる世界離散が起こったのです。ユダヤ人指導者は熱心党によるローマに対する反乱を止めることはできませんでした。イエスを取り除けば、民は自分たちの支配の中にいると思っていたのですが、むしろ逆で、彼らは殺され、かつ民は世界中に散らばってしまったのです。しかし 34 章には、イスラエルの失われた羊をイスラエルの地を牧場として再び飼うことになるという約束をしておられます。その約束の一部が前世紀に実現しました。1948 年 5 月 14 日のイスラエルの建国です。主が語られたことは、その通りになるのだという証しであります。

### 3A 羊飼いの声

ですからここで、チャレンジしたいのです。どちらの羊飼いの声を聞いているでしょうか？イエス様の声を聞いているでしょうか？イエス様が、「羊は、(牧者の)声を聞き分けます。(ヨハネ 10:3)」と言われました。イエス様の優しい声に聞き従いますか？御声に聞き従う時に、この方が自分の君主となってくださいます。主は優しく語りかけ、慰めを与えてくださる王です。イザヤも預言しました。「40:11 主は羊飼いのように、その群れを飼い、御腕に子羊を引き寄せ、ふところに抱き、乳を飲ませる羊を優しく導く。」まだ、イエス様のところに来たことのない方は、ぜひ、背の曲がった女のように主の御手を置いてもらってください。また、ザアカイのように、自分の家に、自分の私的な空間に、心の中にイエス様を迎え入れてください。優しい、良い羊飼いとして、王として君臨してください。世は、横暴な羊飼いの支配の中にあります。人は憎しみ、怒り、ねたみ、好色、あらゆる悪が蔓延していますが、ご自分がイエス様を羊飼いとしていれば、敵の前でも、豊かな交わりを保ち、あふれる杯を持っていることができます。